

クモヘリカメムシ

成虫は年2～3回出現し、ヒノキなどの樹上で成虫越冬すると考えられている。越冬世代成虫はイネの出穂前に水田内で確認されることがあり、ヒエなどが出穂していると発生が集中することもある。イネが出穂すると飛来し吸汁加害する。出穂の早い水田に集中して飛来するが、周辺の水田で出穂が始まると次第に分散する。飛翔能力が高く、人の気配を感じるとすぐに飛び去る。

成虫は体長 16mm 内外、体型は細長く、体色は全体黄緑色であるが、膜質部が褐色を帯びている。

防除は、周辺のイネ科雑草の管理と本田内での薬剤防除が主体となる。詳細は（「斑点米カメムシの防除対策について」）参照。



写真 クモヘリカメムシ成虫